

# 言語聴覚室の紹介

---



一般財団法人黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター



# 目次

---

- 言語聴覚室の業務
- 摂食嚥下障害への取り組み
- 言語聴覚室の教育体制
- 職員の声
- 室長から

# 言語聴覚室の業務①

当院の言語聴覚士（ST）は、主に失語症・運動性構音障害・摂食嚥下障害・高次脳機能障害の患者様へリハビリを提供しています。訓練のほかに、摂食嚥下障害の患者様やご家族へ必要に応じて食事指導を行っています。どのようにすれば安全に食べられるのか、といった食物の選択方法や調理方法、食べる際の注意点などを詳しく説明します。

また、外来では言語訓練はもちろんのこと、言語・高次脳機能障害に対する評価を行っています。最近では、摂食嚥下に対しての評価依頼も多く、食事形態や環境の調整方法などの具体的な指導も行っています。

# 言語聴覚室の業務②

## ➤ 急性期病棟の業務

急性期の業務は、主に嚥下評価です。入院の早い段階で嚥下評価を行い、食事が食べられるか、どのような形態が食べられるかを判定します。意識レベルを確認しながら、安全に食事が食べられるように配慮しています。全身状態も不安定であるため、常に看護部門と連携を取りながら、何度も評価を行っていきます。

## ➤ 回復期病棟の業務

回復期では、患者様それぞれにあった訓練プログラムを取り入れていきます。機能向上はもちろんですが、退院後の生活をイメージして、実用的な訓練を行うように意識しています。リハビリは患者様にとってつらいものですが、楽しい訓練となるように配慮して訓練を行っています。

# 摂食嚥下障害への取り組み①

脳卒中患者さんの約半数に、摂食嚥下障害があります。今後のリハビリが円滑に進むよう、早期から安全に栄養を確保することが大変重要です。当院では、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の嚥下調整食分類に対応した6種類の食事形態を準備し、患者さんの状態に合わせた食事提供を行っています。



常菜



移行菜



ソフト菜



軟菜



ペースト菜



ゼリー菜

## 摂食嚥下障害への取り組み②

当院では、医師の指示のもと、入院直後に言語聴覚士が嚥下評価を行い、内服や経口摂取が可能かどうかを判断しています。必要に応じて造影検査（VF）や内視鏡検査（VE）を行い、方針を決定します。

さまざまな職種と連携し、検査結果から食事場面での注意点について話し合い、食事形態や環境の調整、指導を行っていきます。

また、外部からの摂食嚥下に対する講演依頼を通して、一般の方や介護職の方に対しての指導や啓蒙活動を行っています。



# 言語聴覚室の教育体制①

## ➤ 新人教育

指導者との二人三脚が基本となります。初期は、評価と訓練の見学をしてもらいます。教科書で学んできたことを実践場面と結びつけるように指導し、少しずつ検査を実施してもらいます。個々のペースに合わせ、見学と実施を繰り返しながら練習を進めていきます。訓練については、指導者と一緒に評価し、基本プログラムが完成した後、担当として患者様の訓練をしてもらいます。しばらく、二人三脚が続きますが、その中で様々なものが体験できるように配慮していきます。評価と訓練は修得したもののから独り立ちし、これを繰り返していきます。



# 言語聴覚室の教育体制②

## ➤ 教育プログラム

言語聴覚室では、以下のような教育プログラムを設けています。二人三脚が終わってからも、個々のペースに合わせてスキルアップできるように、配慮しています。

＜ステップ1＞職業人としての基礎知識を身につける

＜ステップ2＞専門職としての基礎技術を身につける

＜ステップ3＞専門職としての簡単な実践能力を身につける

＜ステップ4＞専門職としての複雑な実践能力を身につける

＜ステップ5＞専門職としての応用能力を身につける

＜ステップ6＞専門職としての指導能力を身につける

\*各項目それぞれに具体的な目標を設けています。



# 言語聴覚室の教育体制③

## ➤ 知識・技術の向上

院内外への勉強会へ参加はもちろん、患者様に対して全員が一貫した高いレベルの訓練を提供できるよう、技術指導や勉強会を行っています。

また、長年にわたり、失語症をはじめとする種々の障害の研究を行っています。全国の学会への参加や発表を行うことにより、常に最新情報を取り入れるように努めています。



# 職員の声①

## ➤ 言語聴覚士 1年目

私はST1年目で、不安がたくさんありましたが、先輩方からのサポートもあり、少しずつですが、成長を実感できています。STは主に言語障害や嚥下障害を抱える方々と関わることが多いです。人にとって話をしたり、食べ物を飲み込んだりすることは生きるためにとても必要なことだと思います。そのため責任もありますが、そのことに携われるこの職業はとてもやりがいがあります。目に見えない障害に関わる難しさはありますが、先輩方からのアドバイスを真摯に受け止め、今後もスキルアップを目指して頑張っていきたいです。

## 職員の声②

### ➤ 言語聴覚士 13年目

入職してから、急性期、回復期、外来とさまざまな患者様の訓練を担当しました。症状や状況が異なる患者様一人一人に合わせて、どんな訓練を？どんな教材で？と考えるのは大変でもあり、おもしろくもあります。後輩から新鮮なアイデアをもらったり、経験豊富な先輩たちから教科書には載っていないような訓練のコツを教わったりしながら、日々の臨床に取り組んでいます。食べること・しゃべることを支えるやりがいのある仕事です。一緒に取り組む仲間がもっと増えたらいいなと思っています。

# 充実した環境の中で

毎日忙しく過ごしていますが、一人一人が自分の役割に誇りをもって業務にあたっています。人数は決して多くはありませんが、病棟の中での役割は非常に大きく、忙しさの中にも充実感があります。少人数だからこそ、密接な指導ができ、何でも話し合い、不安や疑問を解決できる環境にあると考えています。当院の言語聴覚室は、これまで長期にわたりリハビリを提供しており、経験豊富なスタッフがそろっています。言語聴覚士としてしっかりと技術を身につけたい方、お待ちしております！

言語聴覚室長 盛 亨子